

Q3

2017年3月期 第3四半期決算概要

株式会社プロトコーポレーション (4298:JP)
2017年1月31日



連結主要データ

発行済株式総数 (百万株)		20.9
時価総額(億円)	※2016年12月末	280.5
1株当たり年間配当(円)	※2017年3月期予想	50.0
1株当たり当期純利益(円)	※2017年3月期予想	72.35
1株当たり純資産(円)	※2016年3月期実績	1,286.93
ROE(%)当期純利益ベース	※2016年3月期実績	▲1.5
ROA(%)経常利益ベース	※2016年3月期実績	10.1
自己資本比率(%)	※2016年3月期実績	63.6
潜在株式数		-
外国法人等の株式保有比率(%)	※2016年12月末	29.3

大株主 (上位10名)

	(千株)
1) 株式会社夢現	6,807 (32.50%)
2) JPLLC CLIENT SAFEKEEPING ACCOUNT	1,323 (6.31%)
3) 株式会社プロトコーポレーション	881 (4.20%)
4) BNYM TREATY DTT 10	631 (3.01%)
5) JP MORGAN CHASE BANK 385632	568 (2.71%)
6) CLEARSTREAM BANKING S.A	494 (2.36%)
7) 横山博一	440 (2.10%)
8) 横山順弘	388 (1.85%)
9) BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	387 (1.85%)
10) 益田武美	313 (1.49%)

(2016年12月31日現在)

2017年3月期 第3四半期 連結業績（1）

(単位：百万円)	2015年4-12月		2016年4-12月				前期対比		計画対比	
	実績(a)	売上比	計画(b)	売上比	実績(c)	売上比	(c)-(a)	%	(c)-(b)	%
売上高	40,763	100.0%	43,499	100.0%	42,390	100.0%	1,627	104.0%	▲1,108	97.5%
売上原価	24,780	60.8%	26,215	60.3%	26,017	61.4%	1,236	105.0%	▲197	99.2%
売上総利益	15,982	39.2%	17,283	39.7%	16,372	38.6%	390	102.4%	▲911	94.7%
販売費及び一般管理費	12,599	30.9%	15,047	34.6%	13,869	32.7%	1,269	110.1%	▲1,177	92.2%
EBITDA	4,912	12.1%	3,620	8.3%	3,804	9.0%	▲1,108	77.4%	183	105.1%
営業利益	3,382	8.3%	2,236	5.1%	2,503	5.9%	▲879	74.0%	266	111.9%
経常利益	3,498	8.6%	2,248	5.2%	2,567	6.1%	▲930	73.4%	319	114.2%
四半期純利益	1,934	4.7%	1,360	3.1%	1,459	3.4%	▲474	75.5%	98	107.3%
1株当たり四半期純利益 (円)	95.46	-	67.73	-	72.66	-	▲22.80	76.1%	4.93	107.3%

※2017年3月期の計画値は、2016年5月13日公表の数値であります。(以下同様)

※2017年3月期の「1株当たり四半期純利益」の計画値については、2016年5-6月に実施した自己株式取得による影響を反映しております。

※EBITDAは、「営業利益+減価償却費+のれん償却額」にて算出しております。

(単位：百万円)	2015年4-12月		2016年4-12月				前期対比		計画対比	
	実績(a)	売上比	計画(b)	売上比	実績(c)	売上比	(c)-(a)	%	(c)-(b)	%
販売費及び一般管理費	12,599	30.9%	15,047	34.6%	13,869	32.7%	1,269	110.1%	▲1,177	92.2%
人件費	5,762	14.1%	6,609	15.2%	6,002	14.2%	240	104.2%	▲606	90.8%
広告宣伝費関連	1,953	4.8%	3,282	7.5%	3,074	7.3%	1,121	157.4%	▲207	93.7%
その他	4,883	12.0%	5,155	11.9%	4,792	11.3%	▲91	98.1%	▲363	92.9%
人員数 (名)	1,495名	-	1,713名	-	1,604名	-	109名	107.3%	▲109名	93.6%

※広告宣伝費関連は「広告宣伝費+販売促進費」

2017年3月期 第3四半期 連結業績（2）

売上高	増収（前期対比104.0%）・計画未達（計画対比97.5%） 主に(株)バイクプロスのバイクパーツ・用品のEC販売及び(株)プロトリオスの整備工場向けシステム販売が前年を下回ったものの、(株)プロトメディカルケアの福祉用具レンタルサービス事業が堅調に推移したことなどから、前期対比では1,627百万円の増収（104.0%）となった。 一方、主に(株)バイクプロスのバイクパーツ・用品のEC販売が計画を下回ったことに加え、(株)オートウェイのタイヤ販売単価・販売数量が計画を下回ったことなどから、計画対比では97.5%となった。
売上総利益	増益（前期対比102.4%）・計画未達（計画対比94.7%） (株)プロトリオスの整備工場向けシステム販売が前年を下回ったものの、(株)オートウェイにおいて仕入コスト削減・為替環境の改善に加え、第3四半期のスタッドレスタイヤ販売が堅調に推移したことなどから、前期対比では390百万円の増益（102.4%）となった。 一方、(株)プロトリオスの整備工場向けシステム販売及び(株)プロトコーポレーションのGoo買取及びGooPitの売上高が計画を下回ったことなどから、計画対比では94.7%となった。
販売費及び一般管理費	増加（前期対比110.1%）・計画下振れ（計画対比92.2%） 主に(株)プロトコーポレーションにおいて「ID車両（Goo鑑定車+メーカー認定中古車）」の認知向上を目的とした広告宣伝費が増加したこと、(株)プロトメディカルケアにおける事業規模拡大に伴い人件費等が増加したことなどから、前期対比では1,269百万円の増加（110.1%）となった。 一方、主に(株)プロトコーポレーションにおける人件費が計画を下回ったことなどから、計画対比では92.2%となった。
営業利益	減益（前期対比74.0%）・計画上振れ（計画対比111.9%） 主に(株)プロトコーポレーションにおいて、「ID車両」に係る広告宣伝費が増加したことなどから、前期対比では879百万円の減益（74.0%）となった。また、計画対比では111.9%となった。
四半期純利益	減益（前期対比75.5%）・計画上振れ（計画対比107.3%） 前述の要因等により、前期対比では474百万円の減益（75.5%）となった。また、計画対比では107.3%となった。

2017年3月期 第3四半期 連結業績：セグメント別（1）

売上高 (単位：百万円)	2015年4-12月		2016年4-12月				前期対比		計画対比	
	実績(a)	構成比	計画(b)	構成比	実績(c)	構成比	(c)-(a)	%	(c)-(b)	%
自動車関連情報	37,355	91.6%	39,311	90.4%	38,188	90.1%	832	102.2%	▲1,123	97.1%
広告関連	15,581	38.2%	16,413	37.7%	15,775	37.2%	193	101.2%	▲637	96.1%
情報・サービス	3,747	9.2%	3,937	9.1%	3,644	8.6%	▲102	97.3%	▲292	92.6%
物品販売	18,026	44.2%	18,960	43.6%	18,768	44.3%	741	104.1%	▲192	99.0%
生活関連情報	2,417	5.9%	3,152	7.2%	3,137	7.4%	720	129.8%	▲15	99.5%
不動産	121	0.3%	126	0.3%	138	0.3%	17	114.5%	12	109.8%
その他	868	2.1%	907	2.1%	925	2.2%	56	106.5%	17	101.9%
合計	40,763	100.0%	43,499	100.0%	42,390	100.0%	1,627	104.0%	▲1,108	97.5%

営業利益 (単位：百万円)	2015年4-12月		2016年4-12月				前期対比		計画対比	
	実績(a)	利益率	計画(b)	利益率	実績(c)	利益率	(c)-(a)	%	(c)-(b)	%
自動車関連情報	4,266	11.4%	3,285	8.4%	3,317	8.7%	▲949	77.7%	31	101.0%
生活関連情報	259	10.7%	340	10.8%	411	13.1%	152	158.8%	70	120.8%
不動産	81	67.2%	58	45.9%	109	78.6%	27	133.8%	51	188.1%
その他	▲49	-	▲106	-	▲81	-	▲32	-	24	-
管理部門	▲1,175	-	▲1,341	-	▲1,252	-	▲77	-	88	-
合計	3,382	8.3%	2,236	5.1%	2,503	5.9%	▲879	74.0%	266	111.9%

2017年3月期 第3四半期 連結業績：セグメント別（2）

自動車関連情報

売上高：増収（前期対比102.2%）・計画未達（計画対比97.1%）

広告関連：主に海外子会社2社（マレーシア・台湾）の広告収入が前年を下回ったものの、(株)プロトコーポレーションのグーネット（MOTOR GATE）の取引社数拡大が堅調に推移したことなどから、前期対比101.2%となった。また、主に(株)プロトコーポレーションのGoo買取及びGooPitの売上高が計画を下回ったこと、海外子会社の広告収入が計画を下回ったことなどから、計画対比では96.1%となった。

情報・サービス：(株)プロトコーポレーションのDataLine SalesGuide（新車ディーラー向け商談ツール）による売上高が前年を上回って推移したものの、主に(株)プロトリオスの整備工場向けシステム販売が前年を下回ったことなどから、前期対比97.3%となった。また、主に(株)プロトリオスの売上高が計画を下回ったことなどにより、計画対比では92.6%となった。

物品販売：主に(株)キングスオートの中古車輸出販売及び(株)オートウェイのタイヤ・ホイール販売が前年を上回ったことなどから、前期対比104.1%となった。また、(株)バイクプロスのバイクパーツ・用品のEC販売及び(株)オートウェイのタイヤ販売単価・販売数量が計画を下回ったことなどから、計画対比では99.0%となった。

営業利益：減益（前期対比77.7%）・ほぼ計画並み（計画対比101.0%）

主に(株)プロトコーポレーションにおける「ID車両」プロモーション強化に伴う広告宣伝費の増加等により、前期対比949百万円の減益(77.7%)となった。また、(株)オートウェイの売上総利益が計画を上回ったことに加え、(株)プロトコーポレーションの人件費が計画を下回ったことなどから、計画対比では101.0%となった。

生活関連情報

売上高：増収（前期対比129.8%）・計画未達（計画対比99.5%）

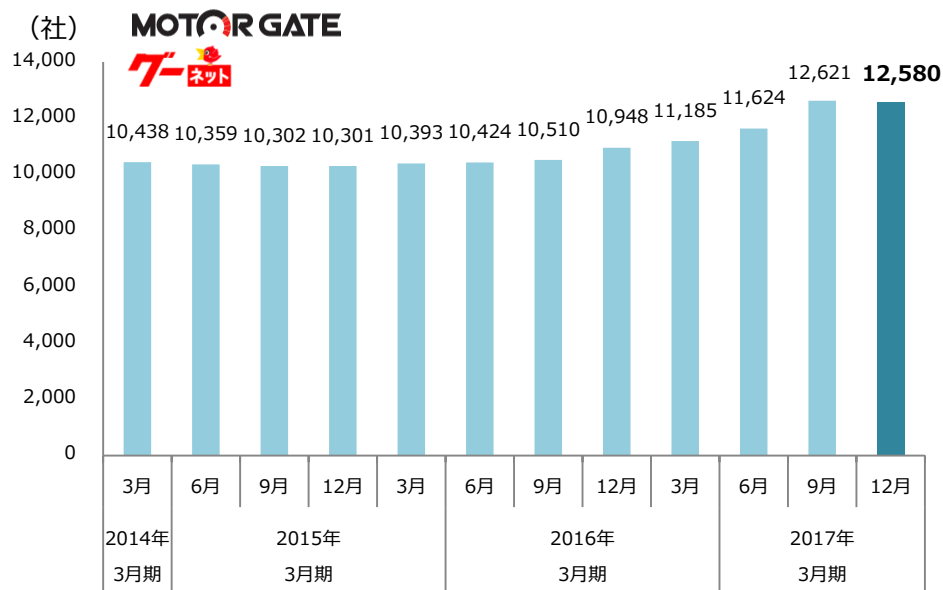
主に医療・介護・福祉分野において、(株)プロトメディカルケアが2016年1月に子会社化した(株)丸富士、(株)シルバーはあとの福祉用具レンタルサービス事業が寄与したことに加え、広告関連事業が堅調に推移したことなどから、前期対比129.8%となった。また、計画対比では99.5%となった。

営業利益：増益（前期対比158.8%）・計画上振れ（計画対比120.8%）

(株)プロトメディカルケアが増益となったことに加え、(株)プロトソリューション（旧(株)プロトデータセンター）の不動産情報事業「GooHome」及び(株)プロトコーポレーションのカルチャー・リユース情報事業の損益が改善したことなどから、前期対比158.8%となった。また、主に(株)プロトメディカルケアの広告関連事業・福祉用具レンタルサービス事業が計画を上回ったことなどから、計画対比では120.8%となった。

中古車販売店取引社数の推移

■ MOTOR GATE（グーネット）取引社数の推移



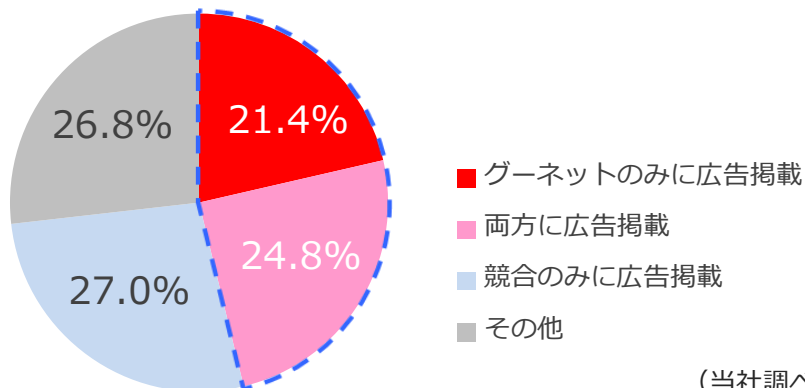
■ MOTOR GATE取引社数（中古車販売店）

2016年4-12月の新車販売台数は350万台（前期対比100.9%）、中古車登録台数は477万台（前期対比100.2%）と前年並みとなった。

このような市場環境の中、当社ではプロモーション強化をはじめ、有力サイト・メディアとの連携強化によるユーザー接点の拡大を進めるとともに、営業効率の改善等を推進した結果、2016年12月末のMOTOR GATE取引社数は12,580社となった。

■ グーネット取引社数シェア（Web）

（2016年12月）



（当社調べ）

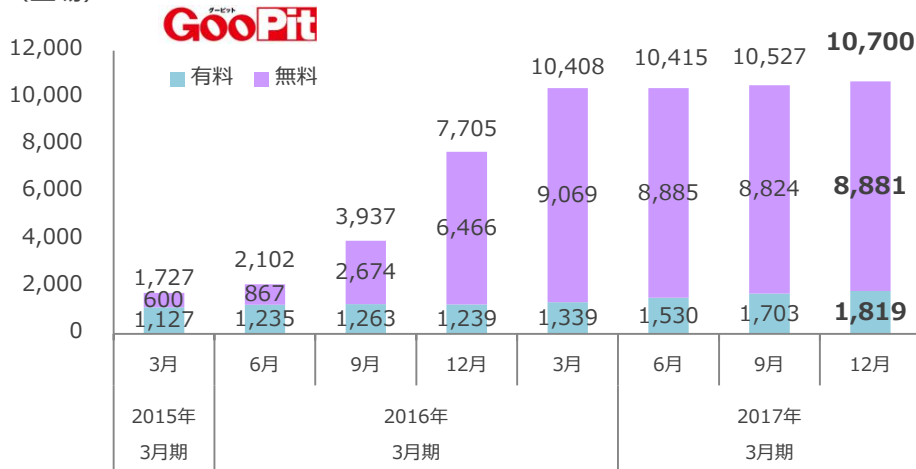
■ グーネット取引社数シェア（中古車販売店）

2016年12月末のWebにおける当社の取引社数シェアは、46.2%となった。

整備工場・新車ディーラー取引社数等の推移

■ GooPit取引工場数の推移

(工場)



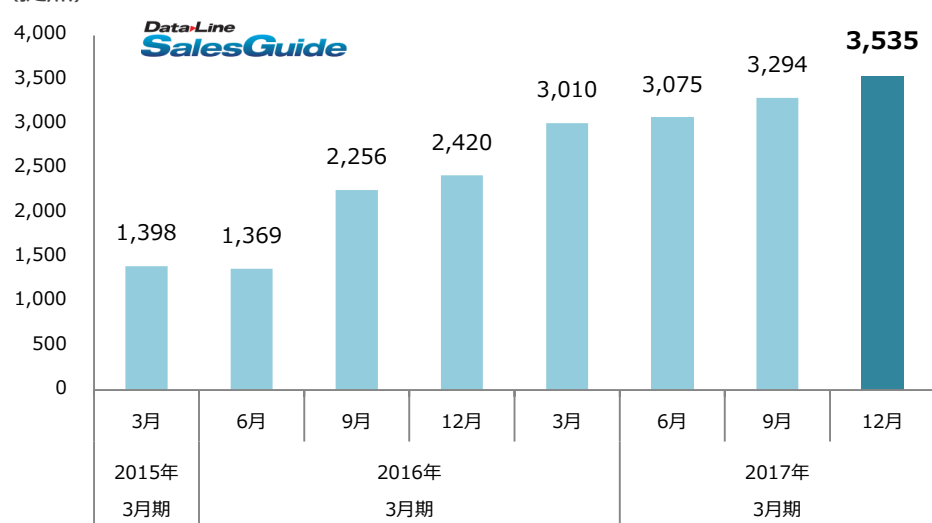
■ GooPit 取引工場数（整備工場）

2016年12月末の取引工場数は10,700工場となった。内訳としては、有料取引工場数は1,819工場、無料取引工場数は8,881工場となった。

今期はGooPitの無料契約から有料契約へのアップセル営業に注力しているものの、有料取引工場数は計画を下回った。第4四半期以降については、引き続きGooPit有料契約のトライアル提案等を通じたアップセル営業を推進し、有料取引工場数の拡大を目指す。

■ DataLine SalesGuide導入拠点数の推移

(拠点)



■ DataLine SalesGuide導入拠点数（新車ディーラー）

2016年12月末の導入拠点数は3,535拠点となった。導入拠点数の計画値を若干下回ったものの、今期は引き続き大手新車ディーラーへの営業強化を図り、導入拠点数の拡大を目指す。

2017年3月期 第3四半期 連結貸借対照表

(単位：百万円)	2016年3月期 期末		2017年3月期 第3四半期末		増減	
	実績(a)	構成比	実績(b)	構成比	(b)-(a)	%
流動資産	22,073	54.0%	24,548	57.0%	2,475	111.2%
固定資産	18,812	46.0%	18,498	43.0%	▲314	98.3%
流動負債	11,805	28.9%	13,761	32.0%	1,955	116.6%
固定負債	3,079	7.5%	2,993	7.0%	▲86	97.2%
純資産	26,001	63.6%	26,292	61.1%	291	101.1%

(単位：百万円)	2016年3月期 期末		2017年3月期 第3四半期末		増減	
	実績(a)	構成比	実績(b)	構成比	(b)-(a)	%
現金及び預金	11,688	28.6%	13,235	30.7%	1,547	113.2%
有利子負債	6,618	16.2%	7,320	17.0%	702	110.6%
ネットキャッシュ	5,069	12.4%	5,915	13.7%	845	116.7%

流動資産 主に営業キャッシュ・フローの獲得により現金及び預金が増加したことなどから、2,475百万円の増加となった。

固定資産 主に減価償却費及びのれん償却額の計上、長期預金の払戻などにより、314百万円の減少となった。

流動負債 主に(株)オートウェイ、(株)キングスオート、(株)タイヤワールド館ベストの短期借入金が増加したことなどから、1,955百万円の増加となった。

固定負債 前連結会計年度末と比較して86百万円の減少となった。

2017年3月期 第3四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	2015年4-12月	2016年4-12月	増減
	実績(a)	実績(b)	(b)-(a)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,191	2,883	▲308
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲2,480	▲1,062	1,417
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲552	▲225	326
現金及び現金同等物の期末残高	12,104	12,834	730

(単位：百万円)	2015年4-12月	2016年4-12月	増減
	実績(a)	実績(b)	(b)-(a)
投資額（有形・無形固定資産）	2,610	1,053	▲1,556
減価償却費	761	821	60
のれん償却額	768	479	▲289

営業活動によるキャッシュ・フロー

主に税金等調整前四半期純利益2,539百万円、減価償却費及びのれん償却額の合計が1,301百万円発生したことなどから、2,883百万円の収入となった。

投資活動によるキャッシュ・フロー

主に固定資産の取得による支出が1,073百万円発生したことなどから、1,062百万円の支出となった。

財務活動によるキャッシュ・フロー

短期・長期借入金の純増加額が702百万円発生したものの、主に配当金の支払が893百万円、自己株式の取得による支出が198百万円発生したことなどから、225百万円の支出となった。

Appendix

当社の取組み：中古車の車両状態情報の開示（1）

■ Goo鑑定（2008年10月より全国展開開始）

中古車の車両状態情報（外装・内装・機関・修復歴の評価）の開示サービス



**Goo鑑定を通じて車両状態情報を積極的に開示し、
ユーザーが安心・納得して中古車を購入できる環境を整備**

当社の取組み：中古車の車両状態情報の開示（2）

■プロトの提案：新サービス「ID車両」を開始（2016年8月18日～）

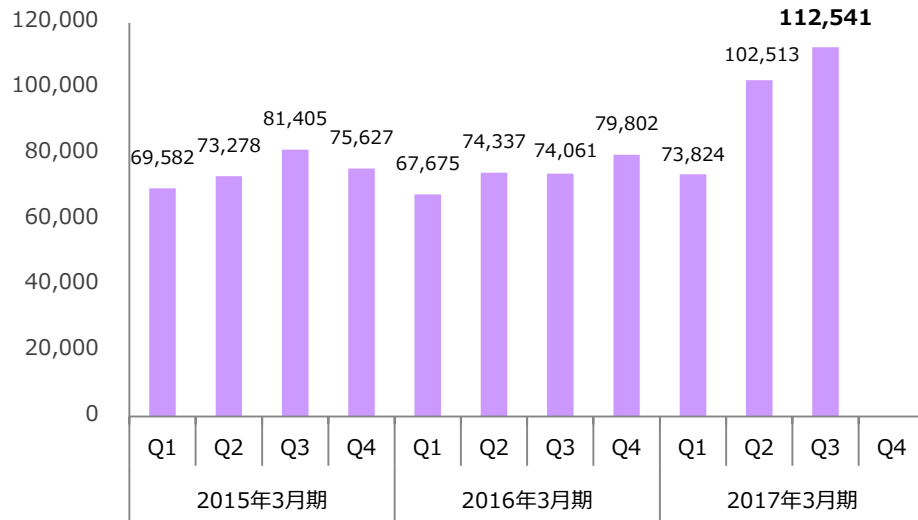


業界全体への呼びかけを通じ、ユーザー目線に立った取組みを促進

Goo鑑定実施台数等の推移

■ Goo鑑定実施台数の推移

(台)

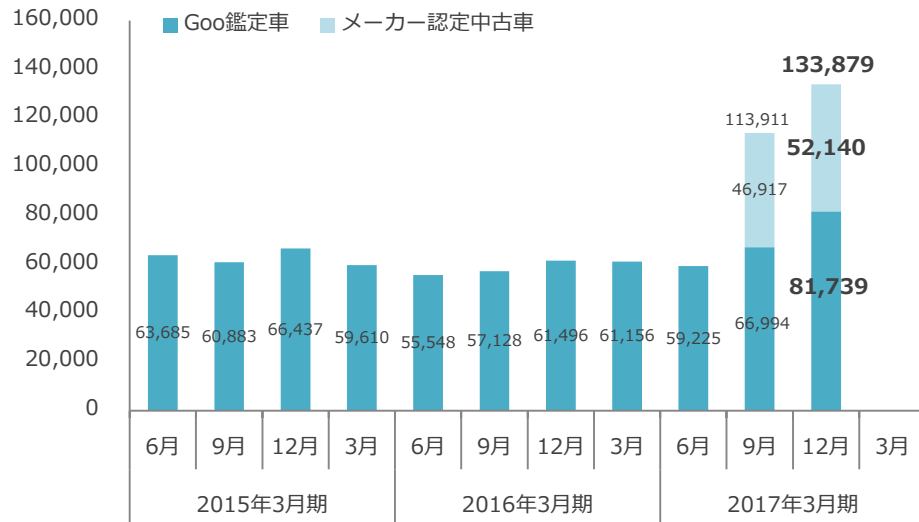


■ Goo鑑定実施台数（国内四輪）

2016年10-12月のGoo鑑定の実施台数は112,541台（前年同期対比152.0%）となった。

■ グーネット上の車両状態情報開示台数の推移

(台)



■ グーネット上の車両状態情報開示台数

車両状態情報を開示したGoo鑑定車及びメーカー認定中古車を総称し、2016年8月18日より「ID車両」としてリリースしており、競合との差別化の軸として台数拡大に努めている。

2016年12月末時点のGoo鑑定表示台数は81,739台（前年同期対比132.9%）となった。また、メーカー認定中古車の2016年12月末時点の表示台数は52,140台となった。

会社概要

社名 株式会社プロトコーポレーション
創業 1977年10月1日
設立 1979年6月1日
資本金 1,824,620,000円 (2016年12月31日現在)
発行済株式総数 20,940,000株 (2016年12月31日現在)
本社 〒460-0006 名古屋市中区葵一丁目23番14号
〒113-0033 東京都文京区本郷二丁目22番2号
支社 札幌、仙台、高崎、長野、浜松、名古屋、金沢、大阪、広島、松山、福岡、熊本
(全国56拠点)
事業年度末 3月31日
社員数 連結：1,604名 (2016年12月31日現在)
単体： 644名 (2016年12月31日現在)
上場取引所 東京証券取引所JASDAQスタンダード (2001年9月12日 上場)



月刊中古車通信 1977年創刊

連結子会社

1.株式会社プロトリオス	【2002年10月子会社化】	(議決権所有割合：直接 100%)
2.株式会社プロトソリューション※	【2007年 4月設立】	(議決権所有割合：直接 100%)
3.株式会社プロトメディカルケア	【2009年10月子会社化】	(議決権所有割合：直接 100%)
4.株式会社バイクプロス	【2010年 4月子会社化】	(議決権所有割合：直接 100%)
5.株式会社カークレド	【2012年 2月設立】	(議決権所有割合：直接 100%)
6.株式会社キングスオート	【2012年 4月子会社化】	(議決権所有割合：直接 100%)
7.株式会社オートウェイ	【2013年 4月子会社化】	(議決権所有割合：直接 100%)
8.株式会社タイヤワールド館ベスト	【2015年 4月子会社化】	(議決権所有割合：直接 100%)
9.株式会社丸富士	【2016年 1月子会社化】	(議決権所有割合：間接 100%)
10.株式会社シルバーはあと	【2016年 1月子会社化】	(議決権所有割合：間接 100%)
11.PROTO MALAYSIA Sdn. Bhd.	【2011年 9月子会社化】	(議決権所有割合：直接 100%)
12.台湾寶路多股份有限公司	【2011年12月設立】	(議決権所有割合：直接 100%)
13.CAR CREDO MALAYSIA SDN. BHD.	【2015年 8月設立】	(議決権所有割合：間接 100%)
14.PT. PROTO INDONESIA (清算手続き中)	【2012年12月設立】	(議決権所有割合：直接 75%、間接 25%)

(2016年12月31日現在)

※2016年10月1日付にて、(株)プロトデータセンター(存続会社)と(株)アイソリューションズ(消滅会社)が合併し、(株)プロトソリューションに商号変更しております。

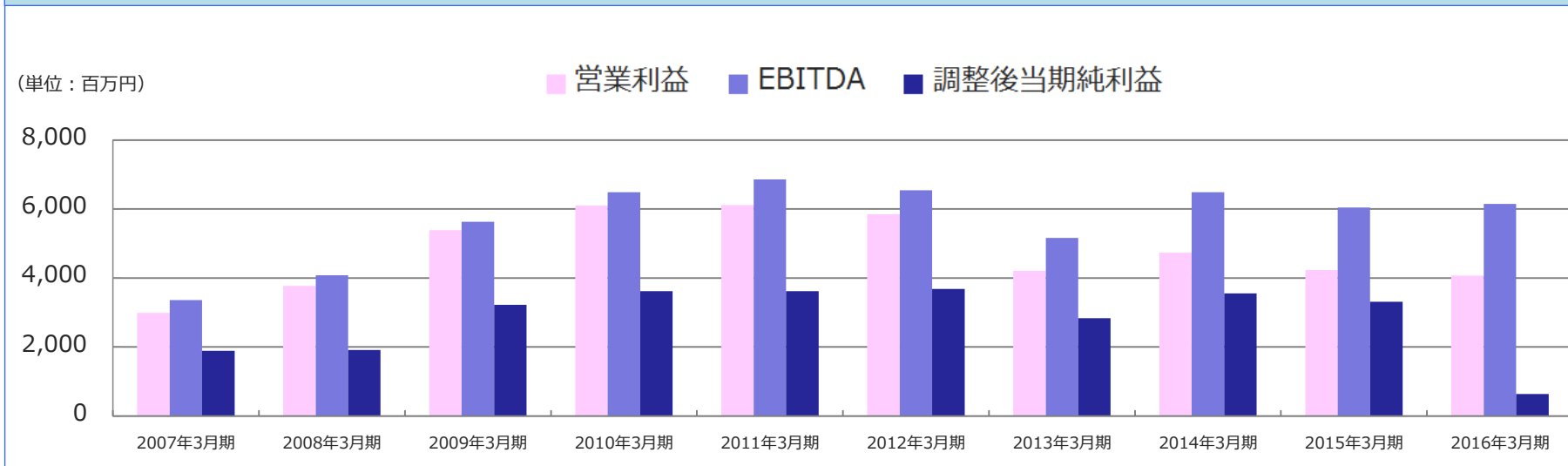
連結業績（10年推移）

（単位：百万円）	2007年 3月期	2008年 3月期	2009年 3月期	2010年 3月期	2011年 3月期	2012年 3月期	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期
売上高	21,238	22,893	23,657	25,682	28,779	30,582	38,287	54,761	48,602	54,297
営業利益	2,988	3,771	5,384	6,098	6,111	5,846	4,209	4,735	4,233	4,071
当期純利益	1,766	1,838	3,187	3,529	3,197	3,275	2,290	2,627	2,381	▲ 390
EBITDA * 1	3,360	4,078	5,628	6,490	6,856	6,540	5,161	6,483	6,039	6,149
調整後当期純利益 * 2	1,890	1,915	3,223	3,621	3,620	3,680	2,836	3,555	3,308	641
減価償却費	247	230	207	299	322	288	404	819	879	1,046
のれん償却額	124	77	36	91	422	405	546	928	926	1,032

*1 EBITDAは、「営業利益+減価償却費+のれん償却額」にて算出しております。

*2 調整後当期純利益は、「当期純利益+のれん償却額」にて算出しております。

営業利益・EBITDA・調整後当期純利益の年次推移



※ 本資料に記載の金額は、全て百万円未満を切り捨てて表示しております。

◆将来予測について

本資料で提供されているIR情報には、将来の見通しに関する情報が含まれています。

これら歴史的事実以外の情報は、当社グループが属する業界の競争、市場、諸制度に係るリスクや不確実性による影響を受ける可能性があります。その結果、当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び推測に基づく見込みは、将来における実際の成果及び業績とは異なる場合があります。ご承知おきください。

◆本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先

株式会社プロトコーポレーション 経営企画室 高林、金子

Tel : 052-934-1519

Mail: 4298ir@proto-g.co.jp